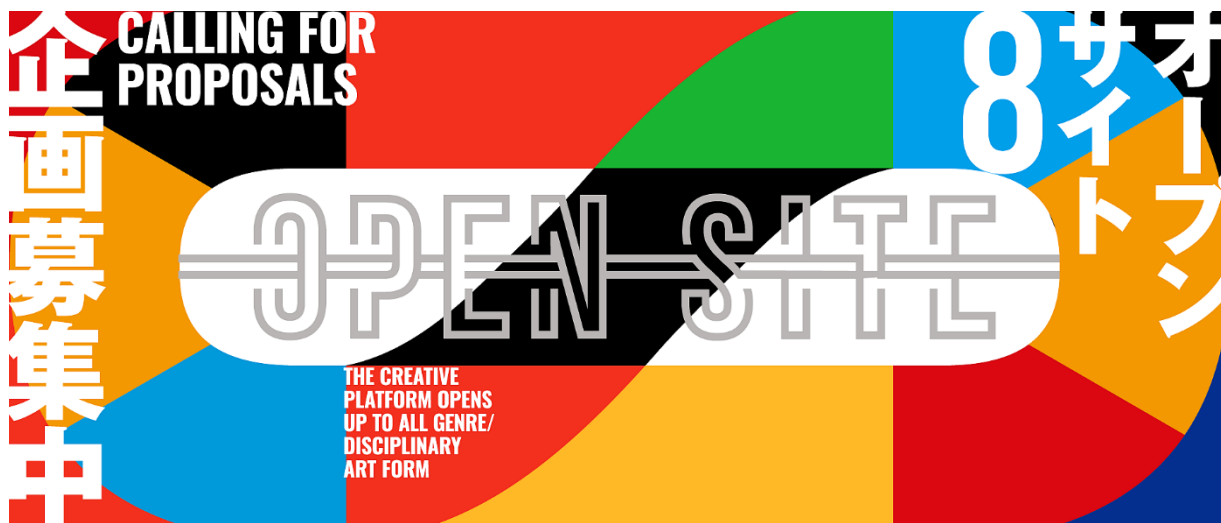


「OPEN SITE 8」企画募集！**応募期間：2023年2月28日(火)～3月30日(木)**

トーキョーアーツアンドスペース(TOKAS)の企画公募プログラム「OPEN SITE 8」の募集が2月28日(火)から始まります。「OPEN SITE」では、あらゆる表現活動が集まるプラットフォームの構築を目指し、展示、パフォーマンス、dotの各部門で企画を募集。選出された企画は、2023年11月から2024年2月にかけて TOKAS 本郷で実施されます。前回の「OPEN SITE 7」では、応募総数 135 企画から厳正なる審査を経て、セルフ・キュレーション企画やパフォーマンス、参加型イベント等の9企画を選出し、いずれも好評を博しました。

2023 年度も、時代性に即した視点でこれまでにない表現を探求し、社会と向き合う創造的な企画を募集します。美術館の展示室やコンサートホールとは異なる、TOKAS 本郷の空間を活かした自由な発想による企画をお待ちしています。なお、「OPEN SITE 8」より、海外在住者からの応募も再開します。

募集概要**【募集企画】**

1～4の全てに該当するもの。

1. 以下のいずれかの形式に当てはまる企画。

平面、立体、デザイン、メディア・アート等の展示、リサーチプロジェクトの発表、音楽、ダンス、演劇、映画、映像、シンポジウム、ワークショップなど。これらに類する企画やこれらが複合した企画。

2. 時代性、社会性を反映しながら、新しい表現を目指し、創造の場を作り上げていくことに意欲的な企画。

3. 高い構成力や独自性の認められる企画。

4. 少なくとも代表者1名が企画実施時に日本国内に滞在し、TOKAS 本郷での企画準備から運営、撤去まで遂行できること。

【発表形式】

A. 展示部門（各会期：約1ヶ月間〔設営撤去日程除く〕、入場料無料）

B. パフォーマンス部門（会場使用期間：6日間〔設営撤去日程含む〕、原則として入場料有料）

C. dot 部門：シンポジウム、ワークショップなど（会場使用期間：6日間〔設営撤去日程含む〕、入場料無料）

< お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース（公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館）

広報担当：市川、武智

TEL : 03-5245-1142 FAX : 03-5245-1154 E-mail : press@tokyoartsandspace.jp

【支援内容】※下線は昨年度より変更がある支援内容です。

1. 会場の無償提供
2. 制作支援金（消費税別） | 展示部門：40万円 | パフォーマンス部門：20万円 | dot部門：10万円
3. 設営の補助 | 展示部門：設営の一部業者委託手配 / パフォーマンス部門：実施に係る制作の補助手配
4. 輸送の補助 | 展示・パフォーマンス：最大20万円（条件あり）、dot：2万円支給
5. 出演料の支払い（入場料売上相当額）（パフォーマンス部門）
6. 記録冊子の制作（展示部門）
7. 宿泊施設としてTOKASレジデンシーの提供（国内遠方居住者のみ）（展示・パフォーマンス部門）
8. 広報・宣伝および運営の一部をサポート

詳細は応募要項参照

【会場】トーキョーアーツアンドスペース本郷（東京都文京区本郷2-4-16）

【企画実施期間】

1. 2023年11月25日（土）～2023年12月24日（日）
 2. 2024年1月13日（土）～2024年2月11日（日・祝）
- ※パフォーマンス・dot部門は上記期間内の連続する6日間となります。
月曜日（祝日を除く）、展示替え期間及び年末年始（12月25日～1月12日）は休館。

【審査員】（敬称略）

岸本佳子（BUoY 芸術監督）
小林晴夫（blanClass ディレクター）
畠中実（NTTインターコミュニケーション・センター[ICC] 主任学芸員）
近藤由紀（トーキョーアーツアンドスペース プログラムディレクター）

【応募パッケージダウンロード】

TOKAS ウェブサイト（www.tokyoartsandspace.jp/）よりダウンロードしてください。

【応募期間】

2023年2月28日（火）～2023年3月30日（木）（資料アップロードは2023年4月8日（土）まで）
※いずれも日本時間23:59まで

【応募料】 無料

【応募資料ダウンロード・応募に関するお問い合わせ】

トーキョーアーツアンドスペース本郷 OPEN SITE 事務局
E-mail: opensite8@tokyoartsandspace.jp

■ 広報用画像 (OPEN SITE 7 記録写真)

【展示部門】



1. 菅 実花
「鏡の国」



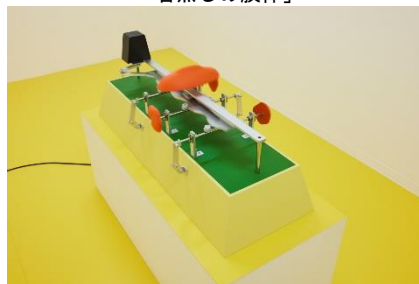
2. 米澤 柊
「名無しの肢体」



3. Excitation of Narratives (EoN)
「話法の生成 —Essay Film の立地—」



4. ルイズ・ラウス &
アグスティン・スピネット
「Sounds from Liminal Town」



5. 小林 椋
「亀はニエフスのイウユのように
前足を石にのぼすと」

【パフォーマンス部門】



6. 前田春日美+豊島彩花
「やわらかい杖を置く 平たい目で登る」



7. たくみちゃん
「—(dash)#2 Rosetta Stone」

【dot 部門】



8. サトウアヤコ
「日常記憶地図
『“家族”の風景を“共有”する』」



9. 高松 霞
「連句の赤い糸」